

《教養科目》

科目名	キャリア教育 I				
担当者氏名	大野 博之、田中 政巳、キャリア委員長、専任教員				
授業方法	講義・演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

建学の精神・教育の方針に対する理解を深め、ディプロマポリシーに挙げた能力が身に付けられるように、本科目ではキャリア形成能力の育成を図っていく。そのために、チュートリアル、グループワーク等を用いて、協働的な学習などの形態の授業を展開していく。

《テキスト》

キャリアノートブック

《参考図書》

大野 誠著「敦照のこころ」現代書林1995 等

《授業の到達目標》

- ・建学の精神・教育の方針について説明できる。
- ・職業人、社会人としての基礎力を身に付ける。
- ・現代社会に必要とされる教養とマナーを身に付ける。
- ・自身のキャリアについて考え、今後の設計をする。

《授業時間外学習》

授業で学んだことを生かし、すべての科目において学ぶ目的を明確にしながらかつた学業生活を送れるように、時間外の学習にも進んで取り組む。
前後期15時間1単位の本科目においては15時間の時間外学習が必要とされており、毎時間1時間程度の時間外学習に取り組む。

《成績評価の方法》

レポート等の課題60%、授業に向かう意欲、姿勢、態度40%
総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートや提出課題については適宜評価し、口頭で前回の振り返りを行う等して、フィードバックしていく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「建学の精神」と「教育方針」（学長）	「建学の精神」と「教育方針」について理解し、学生生活で目指すことをについて考える。「敦照のこころ」の関連箇所を読んでおく。
2	大学における学び①（担任）ノートテイキング	ノートテイキングの基本スキルを身につける。これまでの経験から自分に合ったノートテイキング方法をまとめておく。
3	大学における学び②（担任）リーディング	リーディングの基本スキルを身につける。これまでの経験から自分に合った文章読解の方法をまとめておく。
4	大学における学び③（担任）ライティング	ライティングの基本スキルを身につける。これまでの経験から自分に合った文章作成方法をまとめておく。
5	就活講座①職業理解（担任）	栄養士・調理師の仕事内容や果たす役割について理解する。栄養士・調理師の仕事内容について調べておく。
6	卒業生講話①	就職して間もない卒業生の中から調理現場1年生の仕事内容や就職活動体験談を聞き、今後の学生生活で大切にすることを考える。質問リストを作成しておく。
7	食と農業：外部講師	食に関わる専門職を目指す学生として、食を支える農作物の生産現場（農業）について知識と理解を深める。講義内容を振り返りまとめる。
8	/	/
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ I				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	実技	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

いつの時代も健康的な生き方は人類の理想でありながら、近年は身体を動かして活動することや他者と関わる機会が希薄になった時代ともいえる。そこで、本科目では球技などのチームスポーツを通じて、健康の維持・増進を図りながら、チームスポーツにおける協働について学ぶ。社会は協働できる職業人を求めていることを念頭に置き、様々なチームスポーツを通じてコミュニケーションスキルを身につける。

《授業の到達目標》

本科目では、主に球技などのチームスポーツを通じて、以下の目標の到達を目指す。①本授業で取り組むスポーツ各種の基本的なルールを理解して基本動作を修得し、ゲームを実践することができる。②誰とでも良好な人間関係を構築しながら、チームパフォーマンスが高まる方法を考え、実行することができる。③チームスポーツにおけるコミュニケーションについて説明できる。

《成績評価の方法》

本授業で取り組むスポーツ各種の成績およびチームへの貢献度を45%、授業後の学習記録を30%、最終レポートを25%とし、総合評価60点以上を合格とする。積極的なプレーや意欲などを加算要素、消極的なプレーは減点要素として評価する。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

- ①豊田 博（編）他『最新スポーツルール百科2000』．2000年4月15日．大修館書店
- ②平下政美『実践・生涯スポーツ』．平成7年5月19日．不昧堂出版
- ③中村敏雄（編）『スポーツ文化論シリーズ⑥スポーツコミュニケーション論』1995年7月15日．（有）創文企画

《授業時間外学習》

本授業で取り組むスポーツ各種に関する基本的なルール・基本動作について、予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

最終レポートは授業終了後（第15回）に提示する。レポート内容および総合評価はポートフォリオでコメントを記して成績公表時にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体育大会の各競技のルール確認	体育大会の競技種目について、ルールや注意事項について理解を深める〔時間外学習〕競技運営集を参考にして各競技のルールを予習すること（合計1時間）
2	体育大会の出場競技の決定	体育大会委員が中心となり、出場する競技を決定する。〔時間外学習〕令和7年度の体育大会について予習・復習すること（合計1時間）
3	体育大会の出場競技の練習	出場する競技の練習に取り組む。〔時間外学習〕出場する競技について予習・復習すること（合計1時間）
4	体育大会	出場する競技について、練習してきた成果が発揮できるよう最後まであきらめずに取り組む。〔時間外学習〕出場する競技のルール確認および練習（合計1時間）
5	ボッチャ	基本的なルール、得点集計、戦術の理解、ゲームの実践〔時間外学習〕ボッチャの基本的なルール、得点集計について予習・復習すること（合計1時間）
6	バレーボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①②で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間）
7	バレーボールリーグ戦（前半戦）	各チーム総当たりのリーグ戦〔時間外学習〕本次のゲーム結果を振り返り、パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む（予習・復習1時間）
8	バレーボールリーグ戦（後半戦）	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
9	ボートボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①②で基本的なルール（バスケ）を予習、基本動作の復習（合計1時間）
10	ボートボールリーグ戦（前半戦）	各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
11	ボートボールリーグ戦（後半戦）	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
12	卓球 基礎練習・リーグ戦（1）	基本的なルールの理解、ダブルスのコンビネーションを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕卓球（ダブルス）の基本的なルールを予習（合計1時間）
13	卓球リーグ戦（2）	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてペアで話し合う（予習・復習1時間）
14	バドミントン 基礎練習・リーグ戦（1）	基本的なルールの理解、ダブルスのコンビネーションを深める練習〔時間外学習〕参考図書①で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間）
15	バドミントンリーグ戦（2）	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む、総合成績についてペアで話し合う（予習・復習1時間）

《教養科目》

科目名	英語ⅠA				
担当者氏名	ロス マシュー デビッド ケシー				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

日常会話と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。エッセイについてプレゼンテーションを行います。

《テキスト》

English Day
Robert Hickling
2023
Kinseido publishing

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
- (2) 英検の準二級合格に備えることができる。
- (3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
- (4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使う事が出来る。
- (5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語ることが出来る。

《成績評価の方法》

宿題 20%
授業中の課題 45%
プレゼンテーション、参加態度 15%
中間と期末試験 20%
総合評価し、60点以上を合格とする

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
- (3) 日記を書くこともいい方法である。
- (4) 英検を受験して熟達度を測る。
- (5) 一時間程度の宿題が出される。

《課題に対するフィードバック等》

課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方、授業、体験、英会話	(授業内容)授業の受け方、英語の学び方、英語での自己紹介 (時間外学習) 英語での自己紹介を書いてくる。
2	Getting up 1	(授業内容)現在時制・be動詞 (時間外学習) Unit 1 GRAMMARを解いてくる Home Work 1Aを配ります
3	Getting up 2	(授業内容)質問文の作り方・答え方（プレゼンテーション） (時間外学習) Unit 1の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
4	Breakfast time 1	(授業内容)現在時制・一般動詞 (時間外学習) Unit 2 GRAMMARを解いてくる Quiz 1A, Presentation 1A
5	Breakfast time 2	(授業内容)Wh-で始まる質問文 Who, what, when, where (時間外学習) Unit 2の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
6	Getting ready for school 1	(授業内容)名詞 前置詞・複数形（プレゼンテーション） (時間外学習) Unit 3 GRAMMARを解いてくる Home Work 2Aを配ります
7	Getting ready for school 2	(授業内容)There is/are 構文 (時間外学習) Unit 3の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Presentation 2A
8	First day of class 1	(授業内容) 代名詞 中間試験準備 ガイダンス (時間外学習) Unit 4 GRAMMARを解いてくる
9	First day of class 2	(授業内容)個別指導面接 中間試験（プレゼンテーション） (時間外学習) Unit 4の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
10	Lunchtime 1	(授業内容)前置詞 in, at, for, of (時間外学習) Unit 5 GRAMMARを解いてくるHome Work 3Aを配ります Presentation 3A
11	Lunchtime 2	(授業内容)冠詞 a, an, the (時間外学習) Unit 5の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
12	Shopping 1	(授業内容)WH疑問文 Why, How（プレゼンテーション） (時間外学習) Unit 6 GRAMMARを解いてくる Quiz 2A
13	Shopping 2	(授業内容)Polite vs Casual 会話 (時間外学習) Unit 6の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Presentation 4A
14	Getting lost 1	(授業内容)過去時制 (時間外学習) Unit 7 GRAMMARを解いてくる Home Work 4Aを配ります
15	Getting lost 2	(授業内容) 個別英語面接（プレゼンテーション） (時間外学習) Unit 7の単語を調べ、本文の訳を書いてくる

《教養科目》

科目名	情報処理 I				
担当者氏名	大野 譲太郎				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ◎ 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

ICT(Information & Communication Technology)社会の到来を受け、情報処理技術が職場や日常生活の中に広く普及しておりその修得が期待されている。そこでこのような社会のニーズに応えるため、文章処理、表計算といったアプリケーションについて能動的かつグループ協議を行いながら学び、またインターネットを利用する際の注意点や検索技術、タイピング技術、情報倫理に関する知識についても学ぶ。

《授業の到達目標》

情報倫理について説明できる。
ワードの基礎的な操作ができる。
エクセルの基礎的な操作ができる。
パワーポイントの基礎的な操作ができる。
インターネットを使って情報検索ができる。
キーボードのスムーズな操作ができる。

《成績評価の方法》

授業中の課題（70％）小テスト（30％）を総合的に判断する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大石博雄 イチからしっかり学ぶ！「Office基礎と情報モラル」(Office365・Office2019対応) noa出版
大石博雄 2025年度版情報倫理ハンドブック noa出版 Webテスト

《参考図書》

《授業時間外学習》

処理速度向上のためタイピング練習や授業中の内容を復習することが望ましい。
本授業では15時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業内講評やファイルサーバー内でフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本学コンピュータシステムの概要	本学コンピュータシステムの利用方法、ネットワークを利用するための留意点 準備学習：入学準備説明会での内容を復習しておくこと。
2	情報倫理、インターネット	情報セキュリティ、情報リテラシー、著作権、個人情報の取り扱い、ネットコミュニケーション、ウイルス 準備学習：情報倫理ハンドブックの1・2を読んでおくこと。
3	情報倫理、タイピング	コンピュータを利用するために必要不可欠なキーボード操作（タイピング） 準備学習：情報倫理ハンドブック3・4を読んでおくこと。
4	情報倫理小テスト、パソコン操作	エクスプローラ、ファイル操作、フォルダ操作、移動とコピー、ファイル管理 準備学習：テキストP2-34を読んでおくこと。
5	ワードの基礎(起動と設定)	起動、スタート画面構成、新規作成、文書画面構成、リボン、IME設定、入力と変換、範囲指定、一括変換と文節変換 準備学習：テキストP35-65を読んでおくこと。
6	文書作成(チラシ作成)	書式設定、インデント、タブ、表作成、表編集、画像挿入、印刷 準備学習：テキストP66-87を読んでおくこと。
7	文書作成(レポート作成)	表紙の作成、編集、図の挿入、グラフの挿入、引用、図表番号、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正 準備学習：テキストP88-104を読んでおくこと。
8	エクセルの基礎	起動、スタート画面、ブックの新規作成、画面構成、範囲指定、終了処理 準備学習：テキストP105-112を読んでおくこと。
9	表の作成	データの入力、訂正、削除、オートフィル、フォント設定、配置設定、表示形式設定、罫線、行や列の変更 準備学習：テキストP113-126を読んでおくこと。
10	表の編集	印刷イメージの確認、改ページ、ページ設定印刷タイトルの設定、ヘッダー、フッター、印刷 準備学習：テキストP127-132を読んでおくこと。
11	計算の設定	計算式、数式、演算記号、参照、関数の利用 準備学習：P133-155までを読んでおくこと。
12	グラフ作成 エクセル小テスト	グラフの種類、グラフ作成、移動とサイズ変更、グラフの要素、グラフの編集、複合グラフ 準備学習：P156-178まで読んでおくこと。
13	パワーポイントの基礎	プレゼンテーションの基本、プレゼンテーションの要点、形式、ツール、プレゼンテーションの流れ、適切なゴール設定 準備学習：P180-187までを読んでおくこと。
14	パワーポイントの起動と作成	起動、スタート画面、画面構成、スライド作成、効果の設定 準備学習：P188-205までを読んでおくこと。
15	パワーポイントの編集	ワードアート、SmartArt、オンライン画像、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成 準備学習：P206-P221までを読んでおくこと。

《教養科目》

科目名	日本語と表現				
担当者氏名	吉野 寿一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

日本語に関する基本的な内容を理解し、それを生かして、音声言語・文字言語の両面にわたっての技能の向上を図る。

グループによる協議・発表等、アクティブ・ラーニングの手法を用い、主体的・対話的な学習を通して、必要な技能を身に付ける。具体的には、①新聞記事を使った言語活動②随筆をテーマにした言語活動③レポート活用した言語活動④敬語に焦点をあてた言語活動等を行う。

《授業の到達目標》

目的・相手・場等に応じて、適切な日本語を用いて表現することができる。

音声・文字の両面にわたって、その特性を踏まえ、適切に日本語を表現することのよさを理解し、実践できる。

《成績評価の方法》

平常点（レポート・プリント等）60％と定期試験40％を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

※授業における平常点は、授業中の課題の作品への評価や授業時間外の学修への取り組みの内容を重視する。

《テキスト》

各時間にプリントを配布する。

《参考図書》

三省堂編集部著『新しい日本語表記ハンドブック』第六版 三省堂
池田悠子著『やさしい日本語指導 音韻・音声』凡人社

《授業時間外学習》

授業で取り上げた内容について、日常の言語生活を省察し、課題及び解決策についてまとめる。また、学んだ内容を積極的に活用することで、より定着を図る。優れた日本語表現の採集を日常的に行い、日本語への自覚を高める。

毎回の授業について、予習及び復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたプリント等は、内容を確認し、講評などを付して翌週以降の授業日にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションツールとしての挨拶と対話	コミュニケーションツールとしての挨拶・対話のあり方について理解し、演習する。時間外学習：学んだ内容について、実践したことをまとめる。
2	新聞の特質と紙面構成	新聞の特質と紙面構成について学び、複数記事の比較を通して学んだことをまとめる。時間外学習：一定期間新聞を読み続け、その特質をまとめる。
3	新聞記事から要約文・感想文へ	新聞記事を読んで要約し、感想文にまとめる方法を理解する。時間外学習：記事内容を的確にまとめた要約文になっているかを中心に推敲する。
4	要約文・感想文へのまとめ方	それぞれが作成した要約文や感想文を読み合い相互評価する。（グループ発表）時間外学習：要約文や感想文へのまとめ方について学んだことを整理する。
5	随筆から学ぶレトリックを知る	文章のジャンルとしての随筆の特徴を理解する。レトリック（修辞法）を知る。時間外学習：身近な随筆の例を収集し、随筆の特徴を理解する。
6	随筆を書くレトリックを使う	身近な生活から題材を見つけ、レトリックを使い与えられた字数内で随筆を書く。時間外学習：書き手の思いや考えが読み手に伝わるかを中心に随筆を推敲する。
7	随筆を読み合うより良い表現をめざす	書き上げた随筆をグループで読み合い、相互評価する。（グループ発表・討議）時間外学習：他の随筆から学んだことを整理し、まとめる。
8	レポートや研究論文の特徴	レポートや研究論文の形式・内容について理解する。時間外学習：レポートや研究論文の例を収集し、形式・内容についてまとめる。
9	レポート作成に向けた資料の収集	テーマに即して、資料等を収集する。時間外学習：関係資料の収集、データの蓄積及びそれらをもとにした考察をまとめる。
10	レポートの作成説得力のある文章へ	収集した資料・データ等をもとに、説得力のあるレポートを作成する。時間外学習：レポートとしての形式・内容を整えてまとめる。レポートを仕上げる。
11	作成したレポートの相互評価・良い表現を学ぶ	作成したレポートをグループで読み合い、相互評価を行う。（グループ発表・討議）時間外学習：他のレポートから学んだこと、今後に生かしたいこと等をまとめる。
12	接遇表現と日本語の敬語	接遇表現としての日本語の敬語のあり方について理解する。時間外学習：敬語の種類について整理し、その正しい使い方について理解する。
13	敬語の使い方：手紙文やメール等を想定して	敬語の使い方の実際として、敬語を用いた手紙文やメール文を仕上げる。時間外学習：手紙文やメール文の形式及び敬語を用いた書き方の要点をまとめる。
14	敬語の使い方：電話対応や面接時を想定して	敬語の使い方の実際として、電話や面接時を想定して演習する。（グループ演習）時間外学習：電話や面接時の敬語の使い方についての要点をまとめる。
15	今後生きる、日本語と表現	日常の言語生活で誤りやすい日本語表現例をもとに、適切な使い方を学ぶ。時間外学習：今後の言語生活における、日本語の使用にあたっての考えをまとめる。

《教養科目》

科目名	生活の科学				
担当者氏名	落合 啓志				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

生活の中にある平凡な事象から科学を見出し、グループ討議・発表、観察・実験などを通して生活に役立つ知識や科学的な見方・考え方を修得する。なお、グループ討議は4人程度で毎時間実施し、グループのメンバーは毎回変わる。実験のある授業は20人程度で行い、履修者が多い場合は2回に分けて行う。授業の終末で提示する課題はポートフォリオにて提出する。

《授業の到達目標》

生活の中にある事象について、多面的・多角的・総合的にとらえ、根拠を示して説明したり、科学的な思考ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（20％）、毎回の授業のまとめや感想をポートフォリオにて提出（80％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

赤木かん子著 「タンポポもっと知りたい」 新樹社 2015
岩間史朗著 「ぜんぶわかる!タンポポしぜんのひみつ写真館」ポプラ社 2014
佐藤 清隆著 ひと粒のチョコレートに 福音館書店 2023
田村 孝介 (写真) どうやってできるの?チョコレート ひさかたチャイルド 2023

《授業時間外学習》

復習として、授業で配布した資料を活用してポートフォリオを作成する他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。本授業は29時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて概ね3.7時間の自己学習が必要である。（授業計画には☆で示す）

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、次の授業の前日までコメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	科学的ってどういうこと？	情報をそのままのみにすると騙されることもあります。騙されないために科学的に考えることの意義を学びます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
2	タマゴから見えてくる科学 実験編	タマゴを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかがタマゴ、されどタマゴ。そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
3	タマゴから見えてくる科学 生命編	ニワトリのタマゴの不思議について、いろいろな角度から見ていきます。そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
4	紙切れ1枚から見えてくる科学	紙切れを使って、いろいろな実験をしてみましょう。 たかが紙切れ、されど紙切れ。そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
5	タンポポから見えてくる科学	日頃見かけるタンポポには驚かされることがいっぱいです。タンポポを科学してみます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
6	チョコレートから見えてくる科学	スーパーやコンビニ売っているチョコレートにも科学が存在します。また環境問題やSDGs問題も潜んでいます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
7	人間のからだから見えてくる科学	人間のからだって意外と不思議。どうしてこんなことになっているんだろう？ そこから科学が見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
8	災害から見えてくる科学 & 授業終了後、試験	地震や台風、水害など避けて通れない災害を科学の目で見てみます。授業終了後、試験を実施します。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	健康と栄養				
担当者氏名	清田 有里子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

卒業後に人々の健康の保持・増進やに携わる栄養士として、健康と栄養に関わる知識の修得は重要である。とくに、健康の定義、食事の摂り方、食物アレルギー、生活習慣病、食育推進計画などについて学習する。

《テキスト》

適宜、プリント等を配布する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

健康で活力のある生活を送るためには、健康と栄養とがいかに密接であるかを述べることができる。

《授業時間外学習》

授業前に配布された資料は、事前によく読んでおき、予習しておく。また、授業で配布されたプリントを用いて復習し、検索して収集した情報を分析評価し整理する（本授業では29時間の時間外学習が必要である）。

《成績評価の方法》

定期試験（70％）、レポート・提出課題（20％）および討議に臨む態度等（10％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートや提出された課題については内容を確認し、コメントを記載し後日返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康とは	世界保健機関（WHO）憲章の前文とわが国の国民健康づくり運動「健康日本21（第3次）」〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
2	栄養・食と健康	適正な栄養状態、栄養素の欠乏・過剰状態、栄養素相互のバランスが崩れた状態と健康〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
3	健康と食事	持参した食事記録をもとに、自分の食事内容を評価する（演習）〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）、課題〔食事記録の作成〕（1時間）
4	「物」と「食品」	多くの物は、調理されて、人の口に入り、消化・吸収される。調理法により、栄養素の利用は変化する〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
5	乳・幼児期の栄養	身体発育曲線、偏食、食物アレルギー〔時間外学習〕授業内容の復習（3.5時間）
6	成人期の栄養	若い世代の朝食の欠食、生活習慣病の発症予防と重症化予防、「健康な食事（スマートミール）・食環境認証制度」〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
7	高齢期の栄養	健康寿命の延伸に向け、生活習慣病とともに、低栄養、それに起因するフレイルやサルコペニアなどの健康課題がある。〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
8	栄養と食育	埼玉県食育推進計画（第5次）について、収集した情報を分析評価し、ディスカッションを行う。（グループディスカッション）〔時間外学習〕授業内容の復習（4時間）
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	子どもと発達				
担当者氏名	中村 敏男、古木 竜太、東 敦子、小笠原 忍				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

本科目は、心やからだ、言葉、表現などの面から幼い子どもの発達の特性についてグループワークやその発表を通して学ぶ。保育者を目指す学生の入門的な内容の科目ではあるが、保育や子どもに興味があり、保育所等に就職を希望する学生が保育学・教育学・心理学に関する教養を高めるために学ぶことのできる内容でもある。

《テキスト》

必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

子どもの発達について様々な側面から理解し、説明することができる。また、子どもの発達に関する基礎的な知識を身につけ、今日の人間の発達に関わる課題について考察を深め、討議することができる。

《授業時間外学習》

必要に応じて課題を出すので、自己学習を行うこと。本授業では、30時間程度の時間外学習を必要とする。

《成績評価の方法》

レポート（60％）、観察記録（40％）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートは授業の中で適宜解説を加え、フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達と教育（高橋）	発達の諸様相・教育の必要性についての理解〔時間外学習〕「育みたい資質・能力」「育ってほしい10の姿」について、予習・復習する。
2	からだの発達（古木）	人間の身体的側面の発達の理解〔時間外学習〕「立腰教育」「はだし保育」など「〇〇教育」「〇〇保育」について予習・復習する。
3	心の発達（高橋）	人間の心理的側面の発達の理解〔時間外学習〕発達段階と発達課題について予習・復習する。
4	言葉の発達（中村）	人間の言語的側面の発達の理解〔時間外学習〕「クーイング」「一語文」「二語文」について予習・復習する。
5	表現の発達（古木）	人間の表現の発達の理解〔時間外学習〕教育要領、保育指針の「表現」の内容を予習し、「ごっこ遊び」の復習をする。
6	発達に遅れがある子どもへの指導・支援（東）	発達に遅れのある子どもに見られる遅れの背景・要因、基本的な指導・支援の理解〔時間外学習〕障害の種別について調べ、その特性や把握の仕方について予習・復習する。
7	発達における今日的課題（東）	子どもの発達を保障する職業に就くうえでおさえるべき課題の理解〔時間外学習〕特別支援教育の目的、保育指導のあり方について予習・復習する。
8	発達と生涯学習（中村）	生涯学習の重要性の理解〔時間外学習〕これまでの学修内容から設定したテーマに基づき課題レポートを完成させる。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《教養科目》

科目名	ボランティア論				
担当者氏名	安食 邦明				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

地震、津波、台風等の大規模災害、感染症の蔓延などが頻発している。公的援助が届かない部分へのボランティア活動は欠かせないものになっている。世界では、貧困や格差、紛争の続く地域などへのボランティア活動の重要度を増している。この授業では、様々な視点からボランティア活動に必要な知識や、実際にボランティアに取り組む際の準備について学び、ボランティアをやってみようという積極的な態度を培う。

《授業の到達目標》

海外におけるボランティア活動、国内におけるボランティア活動について理解し、説明できる。

ボランティア活動を行う際の課題を理解したうえで、多面的な視点や能動的な姿勢を身に付けることができる。

《成績評価の方法》

課題レポート70%、授業（グループワーク、発表学修等）30%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

猪瀬浩平(著)『ボランティアってなんだっけ?』2020年2月、岩波ブックレット
 さだまさし(著)『ボランティアをやりたい!』2019年12月、岩波ジュニア新書

《授業時間外学習》

授業前：次の授業回で扱うテーマについて、文献・インターネット等を用いて自己学習する。
 授業後：授業で配布された資料等をよく読み込み理解を深め、課題レポートを完成させる。
 （本授業では29時間の時間外学習が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは内容を確認し、次の授業の中でコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ボランティアのすすめ	ボランティアの概念・特徴等について。ボランティア活動の課題[グループ協議]。 [時間外学習] 自分の体験したボランティアやそのイメージを考えておく。
2	災害ボランティア	災害ボランティアと心構え、準備について。災害ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習] どのような災害ボランティアがあるか調べておく。
3	社会福祉とボランティア	社会福祉、高齢者問題等とボランティア活動について。その課題[グループ協議]。 [時間外学習] どのような福祉分野のボランティアがあるか調べておく。
4	環境問題とボランティア	環境問題やSDGsの視点からの活動。私たちにできる環境保全[グループ協議]。 [時間外学習] 私たちにできる環境保護活動でのボランティアについて調べておく。
5	国際社会とボランティア	様々な国際組織、活躍する日本人について。海外ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習] 発展途上国でのボランティアはどんなものかを調べておく。
6	教育・子育てとボランティア	教育・子育て分野の抱える課題とボランティアについて[グループ協議]。 [時間外学習] 教育・子育て分野のボランティアのついて調べておく。
7	企業のボランティア	企業の社会貢献活動・社会貢献家について。企業ボランティアの課題[グループ協議]。 [時間外学習] どんな企業の社会貢献活動があるかを調べておく。
8	ボランティアを始めよう	ボランティア活動の準備と注意点について考える。地域のボランティア[グループ協議、発表学修]。 [時間外学習] 身近にある地域のボランティア活動を調べておく。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	日本文化と国際理解				
担当者氏名	大野 博之、上原 典子、専任教員				
授業方法	講義・演習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

国際社会の一員として、自己の役割を果たすために、我が国及び諸外国の伝統や文化等について主体的・対話的に学びながら深く考え、発表していく。また、異なる文化や価値観を持つ人々を理解し、共生していこうとする姿勢を持てるように学んでいく。さらに、国際社会が抱える様々な課題について学び、それらを自らの問題として捉え、解決のために身近なことから取り組もうとする姿勢や態度を養う。

《授業の到達目標》

1. 日本文化と国際理解の重要性について自らの考えを持ち説明できる。2. 研修先であるオーストラリアや台湾、国内等での体験や成果等の説明をもとに、それぞれの国や地域の歴史や文化等について説明できる。3. 生活に役立つ英会話の基礎について学び、活用できる。4. 国際社会の問題点や課題について指摘でき、自らの生き方や在り方について考え、説明できる。

《成績評価の方法》

- ・授業ノートの内容（各回ごとのレポート等を含む）70%
- ・授業に取り組む意欲や姿勢・態度30%
- ・総合評価60点以上を合格

《テキスト》

- ・必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・大野誠「敦照のこころ」現代書林、1995
- ・竹田恒泰「日本の礼儀作法」2022
- ・大津和子・溝上泰「国際理解重要用語300の基礎知識」明治図書、2000

《授業時間外学習》

- ・各回ごとのテーマについて予習をしておく。
- ・授業後、学修内容や自らの考えをノートにまとめる。
- ・予習や復習、課題等、29時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業時に、学びに向かう姿勢や課題への取組状況等を講評する。またノート等の提出物の内容を評価し、返却時にフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際化の中の日本人:大野博之	「日本文化と国際理解」の講義を通して、国際化の進展の中での日本人の在り方について学ぶ。〔時間外学習〕学修内容と課題に対する自らの考えをまとめる。
2	SDGsと海外の子どもたち: JICA職員	SDGsの視点から捉えた、海外の子どもたちの生活や教育事情について学ぶ。〔時間外学習〕SDGsについて予習しておく。
3	西洋料理テーブルマナー: 担任他	学外で西洋料理テーブルマナーを体験し、基本的な礼儀や作法を身につける。〔時間外学習〕事前にマナーについて予習をし、授業後のまとめも行う。
4	国際理解(1)オーストラリアや台湾等の文化: 大野満他	諸外国（オーストラリアや台湾等）における自然や様々な文化について学ぶ。〔時間外学習〕オーストラリアや台湾等における文化について予習・復習をする。
5	国際理解(2)国内研修先の文化: 古木・大野琴他	国内での研修の実際について学ぶ。〔時間外学習〕国内の研修先等における自然や文化について予習・復習をする。
6	海外で必要な英会話とマナー: 外部指導者	海外研修先で必要な基本的英会話について実践的に学ぶとともに生活習慣やマナーについて演習を行う。〔時間外学習〕英会話について予習をしておく。
7	SDGsと国際社会における問題点: 正切職員	世界の貧困や人権、ジェンダー、教育、地球環境問題等について学び、自身の生活や行動の在り方を考える。〔時間外学習〕世界の諸課題について予習しておく。
8	進展する国際社会での生き方: 大野博之	国際社会における職業人の生き方について学び、本科目での学修を通して今後の生き方について考える。（発表と討議）〔時間外学習〕学修内容についてノートにまとめる。
9	※研修方面ごと(1)研修の概要（目的と意義等）	現地研修の意義や目的及び、研修先での日程等について学ぶ。また、パスポート申請のやビザ取得のための準備を行う。
10	※研修方面ごと(2)研修のための組織作り等	研修のための組織作りと班別行動目標、班別研修コースの設定等を行う。(1)
11	※研修方面ごと(3)研修先のコース設定等	研修のための組織作りと班別行動目標、班別研修コースの設定等を行う。(2)
12	※研修方面ごと(4)研修中のルールやマナー等	研修中の心構えやルール、マナー等について、事例を参考に話し合いを通して実践的に学ぶ。
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	健康・スポーツⅡ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

生涯にわたり健康的な生活を送るために、体力・生活リズムと健康の関連性について学び、理解を深めるとともに、日本における健康づくり施策について知る。本科目の学習を踏まえ、自己の生活を振り返り、健康な生活習慣に向けての課題を見出し、より望ましい生活習慣への改善を図る。

《授業の到達目標》

社会に貢献できる専門的な職業人になるために、本科目を通じて健康の維持・増進を目的とした望ましい運動習慣および生活リズムを理解し、実践することができる。そして、各自が目指す健康的なライフスタイルについて説明することができる。

《成績評価の方法》

試験（レポート）60%、授業における課題30%、授業後に提出する小レポート10%で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

○安部孝 琉子友男著：これからの健康とスポーツの科学 第5版 講談社 2020
 ○深代千代 安部孝編：スポーツでのばす健康寿命 東京大学出版会 2019
 ○福岡大学スポーツ科学部編：大学生のスポーツと健康生活 大修館書店 2017

《授業時間外学習》

授業外学習として、各回に示した[準備学習]および[事後学習]を行いましょう。また、授業で学んだことをノートにまとめ、自身の健康な生活習慣づくりについて考えましょう。（本科目は29時間の授業時間外学習が必要です）

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、次回以降の授業において、口頭やペーパー等にてフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本の健康づくり施策	健康の定義と日本の健康づくり施策について学ぶ [事後学習]自身の町の健康づくり施策を調べる
2	私の町の健康づくり施策	第1週の事後学習で調べた「私の町の健康づくり施策」のプレゼンテーションを行う [準備学習]発表に向けて準備をする
3	体力測定の実施	体力測定を通して、自身の体力の現状を知る [事後学習]体力測定の結果から体力面に関する課題を考えておく
4	運動と健康	運動不足がもたらす健康への影響を学ぶ [準備学習]自身の1日当たりの平均運動時間を調べておく
5	生活リズムと健康	健康生活における睡眠の重要性について考える [準備学習]健康づくりのための睡眠指針2014～睡眠12箇条を読んでおく
6	体の柔軟性と健康	体の柔軟性の低下が健康に及ぼす影響を学ぶ [準備学習]柔軟性の向上に向けたトレーニングを考えておく
7	筋力と健康	筋力の低下が健康に及ぼす影響を学ぶ [準備学習]筋力の向上に向けたトレーニングを考えておく
8	生涯動ける体づくり	”歩くこと”の効果について学ぶ [準備学習]自身の1分間当たりの歩数を確認しておく
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	英語 I B				
担当者氏名	ロス マシュー デビッド ケシー				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

日常会話と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。エッセイについてプレゼンテーションを行います。

《テキスト》

English Day
Robert Hickling
2023
Kinseido publishing

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
- (2) 英検の準二級合格に備えることができる。
- (3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
- (4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使う事が出来る。
- (5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語ることが出来る。

《成績評価の方法》

宿題 20%
授業中の課題 45%
プレゼンテーション、参加態度 15%
中間と期末試験 20%
総合評価し、60点以上を合格とする

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
- (3) 日記を書くこともいい方法である。
- (4) 英検を受験して熟達度を測る。
- (5) 一時間程度の宿題が出される。

《課題に対するフィードバック等》

課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方、授業、体験、英会話	(授業内容)授業の受け方、英語の学び方、英語での自己紹介復習練習 (時間外学習) 英語での自己紹介を書いてくる。
2	In the museum 1	(授業内容) 現在進行形 (時間外学習) Unit 8 GRAMMARを解いてくる Home Work 1B を配ります
3	In the museum 2	(授業内容) 過去進行形 (時間外学習) Unit 8 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
4	At a cafe 1	(授業内容) 未来時制 (時間外学習) Unit 9 GRAMMARを解いてくる Quiz 3, Presentation 1B
5	At a cafe 2	(授業内容) 副詞 always, usually, sometimes, rarely, never (時間外学習) Unit 9 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
6	Part-time job 1	(授業内容) 現在完了形 (時間外学習) Unit 10 GRAMMARを解いてくる Home Work 2Bを配ります
7	Part-time job 2	(授業内容) 過去完了形 (時間外学習) Unit 10 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Presentation 2B
8	After work 1	(授業内容) 助動詞 復習練習 (時間外学習) Unit 11 GRAMMARを解いてくる
9	After work 2	(授業内容) 個別指導面接 中間試験 (時間外学習) Unit 11 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
10	Housework 1	(授業内容) 不定詞 (時間外学習) Unit 12 GRAMMARを解いてくる Home Work 3Bを配ります, Presentation 3B
11	Housework 2	(授業内容) 動名詞 (時間外学習) Unit 12 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
12	Free time at home 1	(授業内容) 比較級 (時間外学習) Unit 13 GRAMMARを解いてくる Quiz 4
13	Free time at home 2	(授業内容) 最上級 (時間外学習) Unit 13 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Presentation 4B
14	The weekend 1	(授業内容) 接続詞 and, or, but, so (時間外学習) Unit 14 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Home Work 4Bを配ります
15	The weekend 2	(授業内容) 個別英語面接 (時間外学習) Unit 14 GRAMMARを解いてくる

《教養科目》

科目名	コミュニケーション論				
担当者氏名	吉野 寿一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 2-2 知識・技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

コミュニケーションとは何か。コミュニケーションに関連する、ソーシャルスキル、アサーション、ファシリテーション等の概略を掴みながら、社会人として一步踏み出すために知識や技能を身に付けていく。さらには、ダイバーシティ、ヴァーチャル化が進行する時代におけるコミュニケーションのあり方をグループ内で対話し、2つ以上のグループ間で考察し、将来に向けてコミュニケーション能力を高めていく。

《授業の到達目標》

○コミュニケーションについて理解するとともに、進んで関係性をより良くできる。○自分自身のコミュニケーションスタイルを知るとともに今後の人間関係に生かすことができる。○コミュニケーションに係る様々な課題を、授業を通して得た知識を総動員して解決できる。○人間関係において生じる様々な問題を、アサーティブに対応できる知識や技能を身に付けることができる。

《成績評価の方法》

授業における課題提出・発表におけるパフォーマンス（40％）定期試験（60％）で評価し、総合評価60点を合格とする。

《テキスト》

教科書は使用せず、その都度コピーを配布する。

《参考図書》

辻 大介、是永 論、関谷 直也 共著『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 2014
平木典子著『アサーション入門』（講談社現代新書）2014
渡辺 潤監修『新版 コミュニケーション・スタディーズ』（世界思想社）2021

《授業時間外学習》

配布資料（コピー）の復習をする一方、日常生活の中で生じる様々なコミュニケーション課題について発表しあうので、その準備をすること。
本授業では60時間の時間外学習が必要。質問等は講義終了後に受け付ける。

《課題に対するフィードバック等》

授業の中で提出を求めた課題については、後日授業中にコメントを付けてフィードバックをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーション（以下CCと記載）とは何か	CCの概略について触れるとともに講義の進め方や学習方法を説明する。時間外学習（以下時学と記載）：CCについて知っていることをまとめる
2	CCの基礎 1 言葉によるCC	ことばが通じる、わかるとはどういう状況のことかを考え、発話の理解や背景的知識の理解を通して、ことばによるCCの基礎について学ぶ。時学：言葉によるccをまとめる。
3	CCの基礎 2 非言語によるCC	ことば以前のCCや動物のそれなどを通して、非言語によるCCの基礎の基礎を学ぶ。時学：非言語によるccをまとめる。
4	CCの基礎 3 会話分析とCC	会話分析により談話や文章を理解するメカニズムを理解するとともに、行為連鎖によって生じる会話の勢いについて学ぶ。時学：行為連鎖によって生じる課題をまとめる。
5	人間関係とCC 1 CCスタイル	より良い人間関係構築に向け、CCスタイル・エゴグラムを通じてそれを知り、相手との関わり方の術を知る。時学：自分のccスタイルをまとめる。
6	人間関係とCC 2 アサーション	関係性を損なうことなく、自分の考えを伝えるための「アサーション」の考え方を理解するとともに、演習を通じ理解を深める。時学：アサーションについてまとめる。
7	人間関係とCC 3 CC的行為	J. ハーバーマスの社会行為に視点を置き、道具的行為、戦略的行為等の意味を理解し、よりよい人間関係を構築する術を考える。時学：社会行為とccについてまとめる
8	人間関係とCC 4 ソーシャルスタイルとCC	ソーシャルスキルとマニュアルとの関連を考え、CCにおける伝達性、親和性等について考える。グループ内ディスカッション 時学：CCにおける課題をまとめる。
9	社会を取り巻くCC 1 メディアとCC	メディアの発達とともにCCにおける伝達方法も変化してきた。様々なメディアに焦点をあてCCについて考える。時学：メディアとccについてまとめる。
10	社会を取り巻くCC 2 CCの不易と流行	IT技術の進歩により、CCの様相も変化している。「不易と流行」視点に立ち、現状や将来のCC状況を考える。時学：これからのccについて考えをまとめる。
11	社会を取り巻くCC 3 全方位型CC	ジェネレーションギャップに象徴される世代間の分裂を避けるためにはどうしたら良いのだろうか。時学：全方位型ccについてについて考えをまとめる。
12	社会を取り巻くCC 4 異文化CC	ますます国際化する中で、自国文化と世界精神について理解し、異文化CCを発揮できる国際人としての資質について考える。時学：異文化ccの課題について考える。
13	いかに伝えるか 1 学習を振り返り発表準備	与えられた課題について自分なりの考え、より良く、より正しく、説得力をもって伝える術を使って発表する。時学：伝え方の工夫を生かし発表の準備をする。
14	いかに伝えるか 2 反省を生かした発表の工夫	与えられた課題について自分なりの考え、より良く、より正しく、説得力をもって伝える術を使って発表する。時学：伝え方の工夫について考えをまとめる。
15	自分のコミュニケーションについて考える	自己発見と自らの成長ぶりを振り返り、本講義で学んだことにより得た成果や新しい経験を発表し合う。時学：コミュニケーションのあり方について考えをまとめる。

《教養科目》

科目名	地球と環境				
担当者氏名	落合 啓志				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

身近なところや日本、世界で起こっている環境問題と自分たちとの関係について、具体的な事例をもとにして、グループ討議や発表を通して学ぶ。なお、グループ討議は4人程度で毎時間実施し、毎回グループのメンバーは変わる。授業の終末で提示する課題はポートフォリオにて提出する。

《授業の到達目標》

主な環境問題の現状について関心を持ち、課題や要因等について説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験（20％）、毎回の授業のまとめや感想のポートフォリオ作成提出（80％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

なし

《参考図書》

増井光子監修 パンダどうぶつの赤ちゃん 金の星社 2023
池田菜津美著 パンダのひみつ飼育員さんおしえて！ 新日本出版社 2014
栗原彬編 岩波新書 新赤版 証言水俣病 岩波書店 2000
後藤孝典著 沈黙と爆発 ドキュメント「水俣病事件」 集英社 1995

《授業時間外学習》

復習として、授業で配布した資料を活用してポートフォリオを作成する他、授業に関連する学習を自発的に行うこと。本授業は29時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて概ね3.7時間の自己学習が必要である。（授業計画には☆で示す）

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、次の授業の前日までにコメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アライグマから考える環境問題	アライグマは動物園だけにいるのでしょうか。アライグマ問題から環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
2	パンダから考える環境問題	パンダは人気者ですが、パンダから環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
3	レジ袋から考える環境問題	たかがレジ袋だが、されどレジ袋。レジ袋問題から環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
4	地球温暖化から考える環境問題	いま話題の地球温暖化問題をいろいろな角度から考えてみましょう。いままで気づかなかったことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
5	太陽光発電から考える環境問題	エコといわれている太陽光発電や自然エネルギーから環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
6	水から考える環境問題	蛇口をひねると当たり前のように出てくる水ですが、水から環境についていろいろなことが見えてきます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
7	環境問題のこれまでとこれから	過去の環境問題とこれからの環境問題の違いは何でしょうか。また、SDGs実現に向けて必要なことを考えます。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
8	埼玉県の環境問題&授業終了後、試験	埼玉県ならではの環境問題について考えます。授業終了後、試験を行います。☆授業終末で示した課題をポートフォリオで提出する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	中国語				
担当者氏名	蔡 秋斬				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能				

《授業の概要》

近年は経済交流や文化交流を通して、中国が身近な国になってきています。そこで、本講義では発音を学びながら挨拶言葉、家族呼称、数字、年月日を学びます。続けて、テキストの“課文”によって、姓名、判断、質問、所有、存在、期日・曜日、時間帯・時刻、貨幣、完了などの表現を学びます。毎回、内容を確認してから、ペアでロールプレイをしたり、教師と会話をしながら楽しく授業を進めていきます。

《授業の到達目標》

受講生が中国語の声調を完璧にマスターできるよう、発音の訓練を徹底的に学びます。そのため、中国語による挨拶、自己紹介、年月日、曜日、時間、買い物などの日常会話ができることを目標とします。

《成績評価の方法》

定期試験における筆記試験と面接試験[50%]、宿題[20%]、授業における会話力の向上度[30%]によって評価し、総合評価 6 0 点以上を合格とします。

《テキスト》

晴れ晴れ中国語 監修者王学群、著者：綾部武彦、小路口ゆみ、劉心苗 朝日出版社

《参考図書》

《授業時間外学習》

発音を学んだ後、毎回授業の最初に前課の本文をペアで復唱するので、必ず復習しておくこと。（本授業は2単位科目のため、各回の内容に対し4時間の復習が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

1. 課題は授業の中で理解しやすい説明をする。2. 日常会話練習に重点を置いた授業にします。3. 学生には毎回の授業に出席し、宿題を自分ですることをお願いする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音① 声調 単母音、子音	声調（四声）、単母音、子音（1） 漢詩①（春曉）（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
2	発音②複合母音、子音 第一課 niihao	複合母音、子音（2）、声調記号の付け方 人称代名詞、是、疑問文（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
3	発音③鼻母音、子音 第二課 お名前は	鼻母音、子音（3）、数字、漢詩②（山村） 名前の中国語発音（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
4	発音④声調変化 総合練習	声調変化、挨拶言葉 総合練習（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
5	第三課 なにをたべますか	レストランでの尋ね方言い方、 自己紹介（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
6	第四課 中国語難しいですか	感想を言う、主語+動詞+目的語 （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
7	第三、四課 総合練習	総合練習、漢詩③（鹿柴） （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
8	第五課 お誕生日は	年月日、数、時刻を言い 中国語の歌を歌う（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
9	第六課 好きなことは何ですか	興味について できる、出来ないを言う（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
10	第五、六課 総合練習 自己紹介	中国語の歌の歌詞を翻訳練習（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
11	第七課 明日授業があるか	約束を交わす （時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
12	第八課 映画館で待てる	所在の表現 漢詩④（登高）（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
13	第七、八課 総合練習 自己紹介	簡単な自己紹介文を書く。（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
14	第九課 これはいくらですか 自己紹介	買いたいものを伝える、道案内をする、 計画について言う・尋ねる（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。
15	総合練習 質問応答	総合練習。（時間外学習）教科書と先生の録音を聞いて復習する。 自己紹介文を言う

《教養科目》

科目名	色彩デザイン論				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

私たちは知覚情報を五感(味覚・嗅覚・触覚・視覚・聴覚)で判断しているが、その中でも視覚情報は87%を占めている。

この授業では視覚情報の多くを占めている色彩について理解し、現場において、ターゲットに対するより効果的なアプローチの仕方を学び、ICTを活用し、PCスキルの基礎を身につける。

《授業の到達目標》

色彩の基礎を理解して問題を発見・解決・提案することができる。

色彩効果を利用して自分の思いを表現することができる。

目的に応じた配色や着色ができる。

《成績評価の方法》

全体で100%とし、授業で制作した作品50%、課題レポート30%、プレゼンテーション20%を基準とし学期末に総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業内で適宜プリント・資料等を配布する。

《参考図書》

- ・香川勇・長谷川望編著「色彩語事典」黎明書房出版 1998
- ・吉岡幸雄「日本の色辞典」紫紅社出版 2000年
- ・大井義雄 川崎秀昭著「色彩カラーコーディネーター入門」日本色研事業 2009
- ・山脇恵子著「図解雑学 よくわかる色彩心理」ナツメ社 2010

《授業時間外学習》

課題ごとに学習内容を伝える。必要に応じて課題に各自取り組むこと。毎回の授業について、予習・復習(概ね1時間半)の自己学習が望ましい。(本授業では60時間の時間外学修が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

授業の中で指示された材料・用具を持参すること。提出された作品は講評を通してフィードバックする他に、全15回の授業終了後に採点を行い、コメントを付け返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩の基礎知識	色彩の基礎(色の3原色や色の3要素)を学ぶ。準備学習：予め自分の感じる「美味しさ」とは何かをまとめておくこと。
2	色彩構成(配色構成①)図形	円形や三角形、四角形、ひし形などの図形を基に美的な構成を行う。配色と色の調和について色鉛筆を用いて、実技で確認する。準備学習：予め色鉛筆の種類を調べること。
3	色彩構成(発表)	配色構成①について作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。
4	色彩構成(配色構成②)色から受けるイメージ	色から受けるイメージについて考え、色彩構成を行う。配色と色の調和について色鉛筆を用いて、実技で確認する。準備学習：予め国旗の種類を調べること。
5	色彩構成(発表)	配色構成②について作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。
6	色彩構成(コラージュ)	配色と色の調和についてコラージュ作品を制作する。準備学習：予めコラージュに必要な雑誌を集めて、構成案を考えておくこと。
7	色彩構成(発表)	配色と色の調和についてコラージュ作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。
8	色彩構成(レポート)	色彩構成で学んだ知識を踏まえてレポート課題に取り組む。準備学習：予め制作内容・発表内容をまとめ、記述する内容を考えておくこと。
9	色彩の感情(企画制作)	視覚で五感を刺激するポスターを企画・制作する。準備学習：予め企画書の復習を行い、制作案を考えておくこと。
10	色彩の感情(発表)	視覚で五感を刺激するポスターのプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。
11	色彩の感情(レポート)	色彩の感情で学んだ知識を踏まえてレポート課題に取り組む。準備学習：予め制作内容・発表内容をまとめ、記述する内容を考えておくこと。
12	彩り・季節を考えた空間づくり(企画)	グループで協働し、彩り・季節を考えた空間づくりの企画する。(予習1時間、復習1時間) 準備学習：予めを調べておくこと。
13	彩り・季節を考えた空間づくり(制作)	グループで協働し、彩り・季節を考えた空間づくりのを制作する。準備学習：予め企画書の復習を行い、制作案を考えておくこと。
14	彩り・季節を考えた空間づくり(発表)	グループで協働し、彩り・季節を考えた空間づくりについて作品のプレゼン・講評を行う。準備学習：予め発表の練習をしておくこと。
15	彩り・季節を考えた空間づくり(レポート)	彩り・季節を考えた空間づくりで学んだ知識を踏まえてレポート課題に取り組む。準備学習：予め制作内容・発表内容をまとめ、記述する内容を考えておくこと。